



加藤 元の



と暮らして
みませんか

30

猫は本来、いくつぐらまで生きる動物でしょう。面白いことに、ほ乳類の寿命（平均的に本来生きることのできる年数）は、その動物種の妊娠期間と密接な関係があります。妊娠期間の短い動物は、寿命も短くなります。

犬と猫の妊娠期間は、どちらも平均六十三日です。そして、寿命は十七 十八年ということになります。これは、猫に正しい栄養と愛情、予防医学が与えられた（正しいワクチンの接種が行われている）場合に、一般的に期待できる寿命ということになります。

獣医学、特にペットやコンパニオンアニマルのための予防医学と栄養学が欠けていたころでは、犬

猫の年齢

6 歳 = 40 歳 検診を受けよう

も猫も十歳にもなれば、人間の百歳などと、大学の先生方やメデアなどでも、そのように言われていました。

しかし、本当は間違いで、猫の獣医学ではつきりしているのは、犬と同様に十七、八歳まで生きる動物なのだということ、つまり猫の十七、八歳は人間の八十四歳から八十八歳にあたるのです。

猫は一カ月で人間の二歳、二カ月で人間の六歳、四カ月で十二歳、一歳では人間の十八歳、さらに二歳では人間の二十五歳ということになります。その後は、人間の一年は、猫の四年にあたるわけで、猫はなんと人間の四倍の速度で生きているということになります。つまり、猫の三カ月は、人間の一年ということであり、猫の二十一歳は、人間の百歳ということになります。

猫の六歳は、人間の四十歳ということであり、生活習慣病、特に腫瘍年齢に達したということになりますから、年に二回から四回は検診を受けることをおすすめします。

また、猫に与えるべき正しい栄養食についても、猫の年齢に応じて、幼猫、成長期、成猫期、高齢期というように、正しい栄養のあり方は異なっていますから、病院で必ず指導を受けてください。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2004年10月31日掲載》